

使用環境を確認して、性能をフルに発揮しよう

筆者がディスプレイの大切さに気が付いたのは、ColorEdgeを購入したときだった。「CE210」を使い始めて感じたのは、今まで自分はなにを見ながら画像調整をしていたのだろうということだ。正確なパネル表示のおかげで作業効率も上がった。最大のポイントは滑らか階調表現にあった。ColorEdgeの特徴は、工場でパネル1台ごとに階調が調整されていることだ。さらに画面の部分ごとに輝度や色度のムラがでないようにデジタルユニフォミティ補正回路が搭載されている。均一に調整されたパネルにデジタル補正回路の組み合わせ、さらにハードウェアキャリブレーションが加わることが色や階調を確認するのに欠かせない環境なのだ。

そのディスプレイも5年以上が経過してそろそろ買い替えを検討していた。

「CX240」を選んだのは、価格と性能のバランスが筆者にちょうど良かったからだ。Adobe RGB色域を97%カバーし、最新のデジタルユニフォミティ補正回路が搭載されているのが決め手だった。あらためて、その使い方の基本を検証してより良い状態で使っていたらいいというのが今回の趣旨である。筆者自身は普段デスクトップPCだが、ユーザーが増えているノートPCと併用する環境で検証した。ソフトウェアの使い勝手の向上もあり、筆者自身もあらためてColorEdgeが身近で優しい存在であることに気が付いたのだ。

LONG RUN REPORT

EIZO ColorEdge CX240



× 佐々木啓太

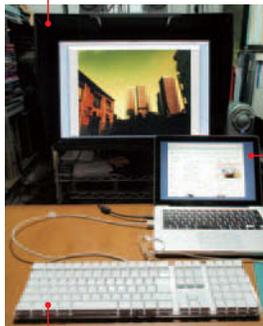
vol. 1 デュアルモニターで使ってみよう

今回は使っている人が多いだろうノートPCとのデュアルモニターで使うときの注意点やキャリブレーションの前に気をつけることを紹介しよう。

佐々木啓太の環境

ColorEdge CX240

このシリーズには27インチもあるが、部屋の密度からサブマリンと呼んでいる作業環境には、これがギリギリのサイズである



ノートPC

MacBook Pro 13インチ。OSのキャリブレーションソフトを利用したモニターキャリブレーションをしている

キーボード

作業効率を考えてキーボードを接続することが多く、写真には写っていないがマウスも使っている

キャリブレーションの前に 1 ディスプレイを拡張モードにする



ノートPCとディスプレイを接続する方法は「ミラーリング」と「拡張」がある。ミラーリングはノートPCと同じ画面を外部ディスプレイに映すモードであり、「拡張」はディスプレイの表示領域を拡大して使うのだ。ミラーリングモードでは「ColorNavigator」が動かないので必ず拡張モードで使おう

キャリブレーションの前に 2

モニターフードを使う

フードありとフードなしの写真を比較するとディスプレイのフレーム部の反射の有無がわかる。このような外光による反射を防ぐためにモニターフードを使う。筆者は個人的に以前ディスプレイにマウスを落として表面に傷つけたことがある。そのような小さな落下物の防止にも役立つはずだ



フードあり



フードなし

キャリブレーションの前に 3

USBは2口以上開けておく

モニターキャリブレーションをするときは、パソコンとディスプレイの通信のためと測色機のためにUSB接続が2口必要だ。測色機はディスプレイのUSBハブを利用することもできるが、筆者は基本的にキャリブレーション時はキーボードを外してノートPCのUSBに接続している



キャリブレーションを開始する

ディスプレイと測色機がセットになっているモデルもあり、キャリブレーションソフトはEIZOから「ColorNavigator」が提供されている。作業はディスプレイを30分程度使って、安定した状態で行うのがおすすめだ。ColorNavigatorのプリセットで「印刷」もしくは「写真」を選ぶ



佐々木啓太 (ささきけいた) : 1969年兵庫県生まれ。日本写真芸術専門学校卒業後、貸スタジオ勤務、写真家のアシスタント生活をを経て独立。「写真はモノクロに限る」が口癖で、写真学校卒業以来の暗室オタクも、デジタルでカラーにシフト。フィルムでも、デジタルでも、写真で楽しく遊べる世界を目指す。「街角写真家」として活動中。http://www.facebook.com/KeitaPage2